

氏名	六 車 満
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3520 号
学位授与の日付	平成12年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Hepatic Neoexpression and Increased Plasma Levels of Lewis Y, a Carbohydrate Antigen, in Chronic Inflammatory Liver Diseases (慢性炎症性肝疾患における糖鎖抗原LewisYの肝組織での発現と血清値の上昇について)
論文審査委員	教授 保田 立二 教授 中山 睿一 教授 檜野 博史

学位論文内容の要旨

糖鎖抗原 LewisY(Le^y)の肝組織での発現とその血清値の上昇について、慢性肝炎や肝硬変などの慢性炎症性肝疾患を中心に検討した。Le^yに対するモノクローナル抗体 AH-6 を用いて、肝組織での抗原はアビジン-ビオチン-ペルオキシダーゼ複合体法で免疫組織染色を行い、血清中の抗原はRIA法で測定した。

正常組織では、肝細胞や細胆管でのLe^yの発現はなかった。慢性炎症性肝疾患では、肝細胞や増殖細胆管で発現がみられた。肝細胞での最も強い発現は慢性活動性肝炎でみられ、増殖細胆管での最も強い発現は肝硬変でみられた。

血清Le^y値は、慢性持続性肝炎、慢性活動性肝炎と肝硬変で有意に上昇したが、これらの疾患の間では有意差はなかった。

Le^yは慢性炎症性肝疾患に関連して出現する抗原であり、組織障害が進行すれば肝でのLe^yの発現も増強するが、血清Le^y値との厳密な相関はなかった。

論文審査結果の要旨

本研究は糖鎖抗原 LewisY (Le^y) の肝組織での発現とその血清値の上昇について、慢性肝炎や肝硬変などの慢性炎症性肝疾患を中心に検討したものである。Le^y に対するモノクローナル抗体 AH-6 を用いて、肝組織での抗原はアビジン-ビオチン-ペルオキシダーゼ複合体法で免疫組織染色を行い、血清中の抗原はRIA法で測定した。

正常組織では、肝細胞や細胆管でのLe^yの発現はなかった。慢性炎症性肝疾患では、肝細胞や増殖細胆管で発現がみられた。肝細胞での最も強い発現は慢性活動性肝炎でみられ、増殖細胆管での最も強い発現は肝硬変でみられた。血清Le^y値は、慢性持続性肝炎、慢性活動性肝炎と肝硬変で有意に上昇したが、これらの疾患の間では有意差はなかった。Le^yは慢性炎症性肝疾患に関連して出現する抗原であり、組織障害が進行すれば肝でのLe^yの発現も増強するが、血清Le^y値との厳密な相関はなかった。

これらの結果は血液型関連糖鎖抗原の発現の意義を臨床例を材料にして、具体的に検討したもので、この分野における確実な成果として認めることができる研究である。

よって、本研究は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。